

不調や仕事への影響を感じた人が多数 業務内容を変更した人は4割超 周りに迷惑をかけている実感が大きい

妊娠時に働いていて、ここ3年以内に産んだ人に調査したところ、妊娠中に不調を感じた人は7割超(グラフ2)。最も多い症状は「つわり・吐き気」84.3%で、妊娠期間を通じて見られる「おなかのハリ・痛み」や眠気、疲れやすさなどに悩んだ人も比較的多い(グラフ3)。負担軽減のため、業務内容を変更した人は4割超(グラフ1)。

個人差はあるが、周囲に妊娠を知らせていない初期段階からつわりなどの不調が発生するため、急に仕事に影響を及ぼすことも多く、「周囲に迷惑をかけていることが気になる」78.2%という気持ち強いのが特徴的だ(グラフ5)。

働く女性の妊娠中

一般的には産前休業に入る前(予定日の6週間前(多胎妊娠の場合は14週間前))まで働く。個人差はあるが、妊娠初期につわりを感じる人が多く、出産までにさまざまな不調が現れることも。医師などから指導を受けた場合、事業主は勤務時間の変更や通勤緩和(時差通勤など)、適切な休憩などの対応をするよう、法律で定められている。

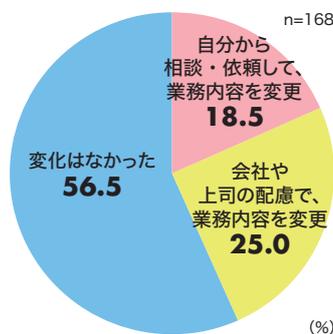
回答者の働き方DATA

働き方 フルタイム勤務76.2%、パート・アルバイト勤務23.8%

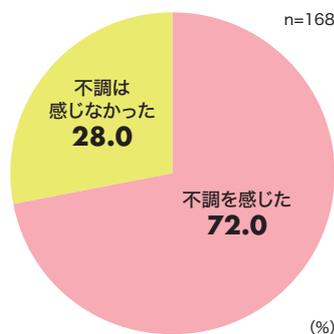
職種 事務系47.6%、専門・技術系26.8%、販売・サービス13.7%、営業系6.0%、その他6.0%

勤務先の規模(従業員数) 300人以下42.3%、301人～1000人20.8%、1001人以上36.9%

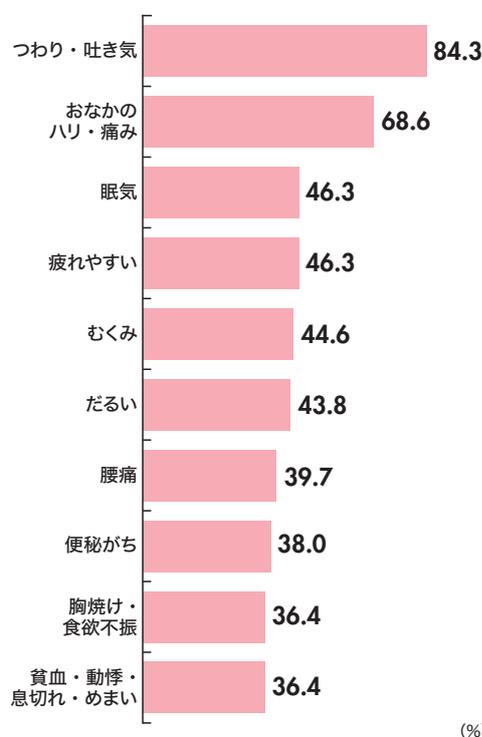
グラフ1：妊娠中、体への負担軽減のために、仕事の内容に変化があったか？



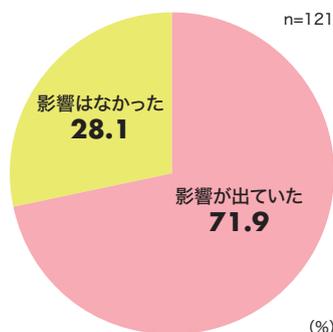
グラフ2：妊娠中に不調を感じたことがあるか？



グラフ3：妊娠中にあった症状(複数回答、上位10項目)
不調を感じたことがある人のみ n=121



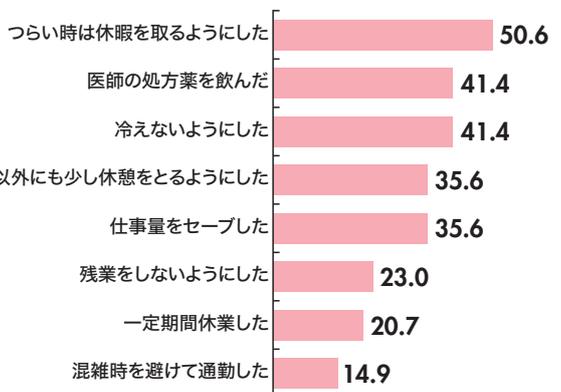
グラフ4：仕事のパフォーマンスに影響が出ていると思うか？
不調を感じたことがある人のみ



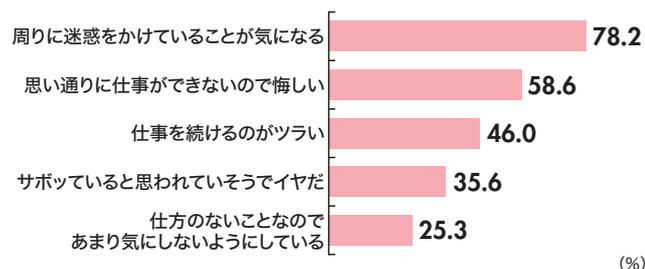
【症状&仕事への影響・具体的事例】

- ・電車通勤時にめまい、時々出血。途中下車して休憩したため、始業時間に間に合わないことが多々あった(33歳/製造/事務)
- ・まず安定期前はひどいつわりで午前中から吐きどおでした。そのため仕事に行けず休むこともしばしば。安定期直前から落ち着いて出張もこなしましたが、安定期に入ってすぐ切迫流産になりそのまま産休に入りました(30歳/情報・通信/専門・技術系)
- ・つわり。通勤自体がなかった。工場内での立会い確認業務があったが、事務所でさせてもらう等した(36歳/製造/その他)
- ・おなかのハリや疲れやすさ。妊娠前のスピード感ではできない。トイレの回数が増えた(35歳/医療・福祉/専門・技術系)

グラフ6：仕事をする上で、症状についてどんな対策をしていたか？(複数回答、上位8項目)
n=87



グラフ5：諸症状で仕事のパフォーマンスに影響が出ていることに対する気持ち(複数回答、上位5項目)
n=87



【調査概要】

調査期間 2018年10/17～10/21

調査方法 リビング新聞、シティリビング、あんふあん、ぎゅってでのWEB調査

調査対象 企業・団体など組織に所属して働く女性

<妊娠編> 集計数 168(この3年以内に産んだ人)

<月経・PMS編> 集計数 299(20代・30代)

<更年期編> 集計数 822(40代・50代)

※各データは小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%にならないことがある